

確実に成長している大妻中野



校長 宮澤 雅子

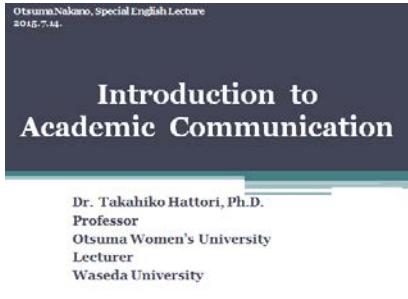
今年も異常気象による思わぬ災害が起こり、各地から痛ましい状況が伝えられています。これは国内だけで解決するには限界があり、まさしく地球規模で協力していかなければならないことが実感される課題です。

1学期は、始業式に「国連の役割」をテーマとしたグローバル・キャリア・セミナーに始まり、終業式は上智大学総合人間学部教育学科教授・田中治彦先生による「タイの抱える国際課題」セミナーで終了します。こうした取り組みからも SGH 校として確実に成長している大妻中野の今を感じることができます。

日本の教育が 70 年に 1 度の大きな変革の時を迎える中で、未来に生きる子供達にとって確かな進路を見定めていかなければなりません。今年度からスタートしたフロンティア・チームの取り組みを始め、全校的な数々の取り組みは、本校の進むべき方向にしっかりと舵を切り、順調に進んでいます。

例えば、ある一日での取り組みです。午前中はアフリカ西部の国・ブルキナファソ大使館から、アンジェリーナ・ナナ駐日大使夫人を本校にお迎えして、国の現状、子供の就学率や極端に低い女子の就学についての課題と解決に向けて、日本が支援している内容や、ブルキナファソの女性リーダーが国を変えようとしている動きなどを伺ったり、意見を交わしたりしました。印象的だったのは、「確かにアフリカは貧困国ではあるけれど、国民の多くは自分たちをポジティブに捉え、生活に喜びを持っています。心は豊かで、何でも分ち合うホスピタリティーの気持ちに溢れています。」と誇りを持って大使が語っていたことです。このブルキナファソはフランス語が公用語の国です。マダム・ナナはゆったりとしたきれいなフランス語で私たちに語りかけてくれました。





午後は、大妻女子大学・大学院教授の服部孝彦先生によるオール・イングリッシュでのアカデミック・コミュニケーションのためのモデル授業が行われました。この授業に参加した生徒は、お互いに絶えず自分の頭で考えて英語を話さなければいけません。そして、次々にステージに立って英語でのショート・スピーチが求められます。本校のニクソン先生もマスターズ先生もファシリティターとして、時には生徒役として参加し、英語だけで自分の意見を主張するトレーニングをサポートしてくれました。この授業の最後に、服部先生は、「人前で英語を話す上で一番大切なことは、”Be confident, keep an eye-contact with anyone and smile!“です」とマダム・ナナと同じお言葉、ポジティブな言葉で授業を締めくくりました。

そのあと夕方からは、模擬国連参加生徒のプレゼンテーション、そして経済産業省からゲストとして、惣山友加さんをお迎えして、現在の日本が世界の中で経済的にどのような立ち位置にあるのか、その抱える問題は何かなどの講演をしてもらいました。惣山さんは、貿易経済協力局技術協力課・課長補佐で、アメリカ・ジョージタウン大学・経営大学院に留学した経歴をお持ちの方です。若い女性のキャリアの方ですから、生徒達にとっては素晴らしいロールモデルとなったと思います。彼女は、アフリカへの日本の開発援助の持つ人道的な意味と経済的な意味という複合的な視点を生徒に伝えてくれました。ここで、再びブルキナファソ大使夫人、マダム・ナナの言葉に繋がりました。

この全てに参加した生徒もいます。また、自主的にいろいろな参加がありました。大妻中野の姿が「地球規模で物事を捉え考える」というカラーに変わってきたことを、参加している生徒達の後ろ姿を見て、強く感じました。まだまだこの先も続く大妻中野の未来に向けた教育活動を通して、生徒達が視野を広げ、盤石な価値観を身につけていって欲しいと願っています。

1学期の締めくくり。一人一人にとって、終業式に受け取る通知表の1枚の紙面のなかに、この学校生活の全てが凝縮され、様々な観点が読み取れるものです。決して結果の数字だけにとらわれずに、努力の経過や出席表などから見られる健康状態や生活習慣等をご家族でご一緒に話し合い、それを来学期の原動力にしていただければありがたく思います。最後にこの1学期も多くの方々に支えられて、教育活動を行うことが出来ました。日頃から本校へのご理解ご協力を賜りましたこと、改めて教職員一同、感謝申し上げます。これから夏休みを迎ますが、長い期間でしか得られない多様な学びで、一段と大きく成長したみなさんに会えることを楽しみにしています。